

令和6年度第3回清瀬市社会教育委員の会議 議事録

令和6年度第3回清瀬市社会教育委員の会議が令和6年9月30日に開催された。
出席委員、議事の概要は次のとおり。

日 時 令和6年9月30日（月）午前10時から正午まで

開催場所 清瀬市役所本庁舎 2階 会議室2-5（対面開催）

出席委員 （対面参加）
倉持議長、齊藤副議長、永嶋委員

欠席委員 松山委員、西田委員、長沼委員

事務局 生涯学習スポーツ課 古川副参事、峰岸主査、成田

次第1 開会

事務局より

- ・開催方法の確認（対面開催、松山委員、西田委員、長沼委員は欠席）
- ・資料の確認

2 議題

（1）4ブロック研修会当日の確認について

- ・スケジュール確認
- ・役割確認

（2）不登校支援について

- ・不登校支援のネットワーク作り

（倉持議長）

それでは令和6年度第3回清瀬市社会教育委員の会議を行う。

もうすぐブロック研修会があり、今年度は清瀬市が当番市ということで、その直前打ち合わせとなる。本日は第4グループ研修会のスケジュール確認と役割の内容確認をするという感じで進めたい。あとは子供たちに聞いたジュニアリーダーズクラブの話もある。それでは事務局から説明をお願いする。

(事務局)

それではタイムスケジュール案をご覧ください。当日はスタートが1時半となる。事務局は午前から会場設営を進める。出席の委員には午後12時45分にアミューホールに直接集合をしていただきたい。午後1時から受付が始まる。

登壇者についても12時45分から1時の間にはお越しいただき、最終的な準備や確認をしていただく。会場内の誘導は齊藤副議長、倉持議長には各市から来られる方の応接等をしていただきたい。事務局は西田委員とともに受付を一緒にやらせていただく。1時半からスタートとなるが、倉持議長には開会の挨拶をしていただき、司会の玉置委員の進行で進めたいと思う。

1時45分から齊藤副議長、ウイズアイ黒田さん、社会福祉協議会の浅見さんの順で15分毎に発表をしていただき、その間に5分ずつ質疑応答の時間を設けたいと思う。その後玉置委員からジュニアリーダーズクラブの報告をさせていただき、15分の休憩を取る。そして最後にグループワークをする。

グループワークはグループ毎に清瀬市の社会教育委員に入ってくださいようにし、進行役としてファシリテーターを務めていただきたい。

30分ほどそれぞれのグループでの事例発表などをもとに、各市の事例なども紹介いただきながら討論をし、3時45分に全体発表をしていただく。全体共有をしておきたいことや感想などをいただける方には、ぜひコメントをいただきたいと思っている。最後に西田委員から閉会の挨拶をしていただき、4時に終了という流れとする。その後私たちは、来賓や講師を見送りつつ、撤収作業をしたい。4時半から5時の間に完全撤収という形で予定を組んでいる。

また、進行台本案を書かせていただいた。本日欠席だが、西田委員から閉会の挨拶案もいただいている。こちらは原案のため、言い回しやこうした方が良いというところがあれば、ぜひご意見等いただきたい。スケジュールについては以上となる。

(倉持議長)

グループディスカッションは1グループに6、7人。当日欠席の方がいたら調整が必要となる。

(事務局)

当日は名札シールを用意する。所属市と名前、どこに座るかをABCDEと入れているので、そこに座っていただく。当日欠席による人数調整については、後で調整したい。

(倉持議長)

登壇者の黒田さんと浅見さんは、前半はDグループで、後半がCグループのような感じで回っていただく。

最後の発表をどうするか。発表してくれるグループがあるかどうか。時間がとても短いので、時間があれば最後に都市社連協の副会長にコメントをいただきたい。前も

って副会長に総評と一緒にコメントのお願いをしておき、最後にコメントをいただけると会がまとまるかと思う。最後の締めは西田委員の挨拶で終わる。

盛りだくさんの欲張り企画になっているので、全体的に時間を心配しながら進行する。流れはこんな感じになりそうだ。

グループディスカッションはテーマについて話す感じで進めるのか。何を話すのかというところはこの司会原稿には載ってない。こういうことをやりますというように、簡単に示したほうが良いかと思う。

グループディスカッションは30分。多分最初に少し自己紹介をして、紹介した後に、事例発表を聞いた感想などがベースになるかと思う。

今回のテーマが子供たちの地域、多様な世代の参加なので、多様な世代の参加をどう把握し工夫しているか、育成についてどう考えどうされたりしているか、というところについて報告し合い、話の感想などを交えながら、それぞれの市の取り組みなどを少し話していただく。

(永嶋委員)

30分間で7人グループだと、1人4分ぐらいしか持ち時間が無く、自己紹介をしていると、それだけでもう終わってしまう。テーマを少し絞った方が良いと思う。

(倉持議長)

ディスカッションをし、もう少し交流がしたい。工夫が必要だと思う。周りの意見を聞くと触発され、話したくなる人が多いと思う。

もともとは担い手育成というところから始まり、子供や多世代参加、それに係る担い手育成と少し絞った。感想よりも各市の取り組みなど、意見を言ってもらった方が良いか。

(永嶋委員)

各市の取り組みと言い出すと、それぞれの事例が長くなり、話す人が限られてしまう可能性がある。

(倉持議長)

例えば、事例や取り組みを踏まえて、多世代参加をするような子供を育てる担い手育成のために、必要なことは何かということについて話してもらおう。どうやったら色々な世代の人たちが入ってきてくれるのか。

(齊藤副議長)

担い手育成となると若者に焦点が行きがちだが、多様な世代、そのあたりも聞いてみたい。

(倉持議長)

どうやって色々な世代の方に参加してもらおうか、運営や企画などにも携わり、継続

的に関わって欲しい。色々な世代の方に参加してもらうために必要なことは何かということ。私たちはそういう意味で担い手という言葉を使っている。ある程度皆さんのご関心と経験で話の幅が出てしまうのは多少仕方がない。

一応目指すテーマとしては、多世代参画の地域の担い手育成のために何が必要かということを事例報告や市の取り組みそのものを話すのではないが、それをベースに色々と話していただく。その中でさっきの事例に出てきたように、私の市ではこういうことやっているというような話が出てくるだろう。

(事務局)

事務局で〇〇市の〇〇と言うように名前シールを作り胸に張っていただくよう受付でお渡しする。これで時間短縮を図れると思う。また、5分前で一度アナウンスを入れ、皆さんのまとめに入っていただこうと思っている。

(倉持議長)

では、今話したようなグループワークのテーマやキーワードをまとめていただき、進行台本に反映していただきたい。これからグループディスカッション始めるというところに、簡単な自己紹介をした後、このことについて話してくださいという表現を入れていただいて、そのあとにファシリテーターが入ると思うが、最初にテーマ設定をし、進め方の説明をしていただく。

当日も各グループに入る5人の委員が集まった際に、もう一度確認をして、このことについて話し合う。なるべく色々な人に意見を出してもらい、やりとりができることを目指す。

グループワークの後、発表をどうするか。発表を重視するか、話し合いの時間をたっぷりとってもらい、結論が出なくてもいいから、色々と意見を話してもらう。または、途中経過でも構わないから、こんな話をしたというように発表してもらう方向でいくのか。

(齊藤副議長)

終わった後にアンケートがあるのであれば、そこに少し書いていただくのはどうか。

(事務局)

アンケートについても取る市と取らない市がある。清瀬市はアンケートを取るか取らないか、どうするのか今日決めていただきたい。

(倉持議長)

齊藤副議長から話があったように、少し話しきれないことや、我々もこれだけの準備をしてきたので、リアクションも知りたいということもある。簡単な感想などを書いてもらい、登壇者の方にフィードバックなどをするのも良いと思う。

（事務局）

アンケートを書く時間は特段設けていないので、やるのであれば机上配布をし、回収は受付に回収ボックスを置き、そこに入れて帰っていただくというような方法になると思う。

（倉持議長）

アンケートについては、本日の研修会についてのご意見を伺うようなシンプルなものでも十分かと思う。

（事務局）

アンケートについては事務局で案はあったので、印刷してこの会議中にお示しできればと思っている。

（玉置委員）

3時40分から5分程度時間があるのか。

（事務局）

40分の段階で終わりの声掛けをし、その中で少し発表していただけるように、やりとりをする時間を緩やかに設けている。

（玉置委員）

全部のグループに発表をしてもらうのなら、こちらからABCとグループを指名してゆき、最後に都市社連協の副会長を指名し、総括とするか。少し短めに1、2分でまとめて協力をお願いする。

（倉持議長）

グループで話し合ったことを含め、感想をお話いただくという形にするのはどうか。各市の議長を指名するというやり方もある。各グループに議長が入っているのなら、〇〇市の議長さんをお願いしたいと指名する。一言ずつお願いしたいと言って、最初に来た時に声掛けをしておく。いきなり当てられたりするよりは、心構えもあるので良いかと思う。

（事務局）

テーブルに各市の議長が1名いる。Aが清瀬市、Bが西東京市、Cが東村山市、Dが小平市、Eが東久留米市となっている。

（事務局）

今アンケートの原案を配布したが、これが前回清瀬市でブロック研修会を開催した際のアンケート内容となる。

(倉持議長)

もっと自由記述欄があっても良いと思う。自由に書くところが多い方が、反応がたくさん返ってくる。

質問については、本日の研修会はいかがでしたかというようなものにし、とても参考になった、あまり参考にならなかった、どちらとも言えないというような感じにし、あとは自由記述にする。前半の講演の満足度と、グループディスカッションの満足度の2つに分けてアンケートを取っても良いと思う。分ければ前半と後半の評価の違いが分かる。

それでは、登壇者等の講演会の打ち合わせに参加いただいた齊藤副議長から、打ち合わせの内容について話を伺いたい。

(齊藤副議長)

講演の発表順については、当初は私が一番最後にするということがあったが、皆様から色々ご意見を伺い、私が一番最初になることになった。ダンボールなどを使い、模型を作っている。パワーポイントなどは使わず、目で見ていただきながら発表をする。そのあとに、黒田さんと浅見さんの発表の方が良いのではないかとということだったので、そのようになった。黒田さんと浅見さんの発表内容については、皆様のお手元にある資料の通りとなる。私が10分くらいで、黒田さんと浅見さんがそれぞれ15分くらい発表を予定している。

(倉持議長)

基本的には事例発表をして、少しだけ質疑応答の時間を取るということだったと思う。事例発表を聞いた後に、ジュニアリーダーズクラブの話をする。こちらについて事務局から説明をお願いしたい。

(事務局)

社会教育委員の会議の中で、松山委員から、子供からの意見を少し聞いてみたいという意見があったので、何か良い方法はないかと探したところ、ちょうどジュニアリーダーズクラブのサマーキャンプがあった。8月18日から2泊3日で行われ、そこで話し合ってもらい、意見をいただくことにした。

小学校4年生から中学校2年生の子供のため、テーマをある程度絞って分かり易くし、子供でも答えられるような質問にした。4グループに分かれてそれぞれ話し合ってもらった。

まず始めに4つのお題を出し、自分たちがどのテーマについて話し合うかということ、子供たちに選んでもらった。

次に、あるグループは清瀬市のいいところ、好きなところというテーマについて、子供たちにたくさん意見を出してもらい、付箋に書いてもらった。それを最終的に、グループの中でどういう話し合いをしたのかということでもとめてもらい、こういう形で模造紙に書いてもらった。その意見の中でも多かったものにはこんなものがありました、というような形でこれについて簡単に司会の方から説明していただけると、

時間を短縮できると思う。

こちらの模造紙については、正面のホワイトボードに始めから貼っておく。上からスクリーンを降ろしておき、講演中は見えない形にしておく。研修会の最後にスクリーンを上げてオープンにし、帰りに皆さんに見ていただこうと思っている。これだけ大きい模造紙なので、手元の資料にすると少しぼやけてしまって見づらいため、こういう形で皆さんにお見せしたい。

自分なら学校をこう変えたい、地域の大人たちとどう関わっているか、はたち、大人になった時にどんな清瀬市になってもらいたいのか、というようなことで話し合ってもらった。短時間で難しいかと思ったが、ほぼ大人は手を出さず、子供たちだけで考えて意見をまとめられた。

初めにどんな意見、どんなふうに書いたらいいだろうという子供たちの反応があり、例えばこのような思いを入れてもいい、こんなふうに思っていたら書いてもいいよというような形で1度だけ話をしたら、後はもう全部自分たちで書いてまとめてくれた。班毎に、様々な色を使うグループもあればシンプルに白黒でまとめるグループもあったりと、それぞれの思いでまとめてくれた。結構見応えがあると思う。

(倉持議長)

進行台本に、この質問項目も社会教育委員の会議で検討したということを入れた方がよい。このようなやり方があるという情報をいただいて、会議でこのようなことを話しているというのは、他市の委員の方々にとっても参考になる話だと思う。社会教育委員の会議の中で、どのようなことを話し合ってもらうのかを検討し、4つのテーマを決めたことを入れる。この4つのテーマを話しても良いと思うが時間の関係もあるので、話すかどうかは検討したい。

子供たちの意見は結構面白いので、まとめのところだけでも紹介できればと思う。子供たちから直接意見を聞いてということも、なかなか他市でも見かけない面白い取り組みなので、皆さん大変興味を持って見られるのではないかなと思う。詳しく紹介して見ていただきたい。私たちの班ではこのようになりましたというように、よく意見をまとめ、このように結論を出している。まとめ方も面白い。

グループディスカッションでは、そのような取り組みや、そのような子供たちがいる中で、どのように色々な人たちと関わってくれる担い手の方を育てるかという転換をしなければならないので、休憩明けよりも休憩前にこの事例とまとめをご紹介します。その後にグループワークでこのようなことを話すのが、また休憩時間にも考えられて良いのかと思う。

(事務局)

ジュニアリーダーズクラブは小学4年生から中学生まで。中学生がこれをまとめているチームと、小学生がまとめているチームがあった。大人は中学生が絶対書くものだと思っていたが、あるグループは小学生がまとめたところに、小学生が分からないものを中学生が言葉でサポートしながら伝えたりして、上手くまとめていた。

(倉持議長)

ではこのジュニアリーダーズクラブの説明をもう少し丁寧にさせていただき、休憩に入る前にグループワークの前振りをし、報告、まとめを進めたい。

(事務局)

登壇者には謝礼はするが、ジュニアリーダーズクラブの子供たちにも、メモ帳とシャープペンを野外活動の時に使っていただけるように人数分を用意したので、こちらを次のジュニアリーダーズクラブの催し物があるタイミングで、事務局から渡してもよろしいか。

(倉持議長)

是非そうしてほしい。その際に、取ったアンケートの中でこの事例の話などが出てきたら、それも一緒にフィードバックをしてあげていただきたい。

では、次の議題。不登校支援についてということで、事務局より説明をお願いしたい。

(事務局)

引き続き協議をしていただいている不登校支援のネットワークづくりがテーマだが、12月の社会教育委員の会議の後が教育委員との懇談会になる。その席で何かしらの報告ができれば良いと考えている。中間報告になるのか、最終的な提言のようになるところになるのはまだ分からないが、今日までの議論を踏まえて、10月の会議である程度形にするのが良いと思っている。

(倉持議長)

最初の教育委員との意見交換の際に、教育長から不登校支援について検討して欲しいという話をいただいた。まずは現状把握をしようということで、不登校支援を行っている団体や施設をリストアップしていただいた。ここからどのように支援をしている団体との繋がりを作り、今後このようなことに関わる担い手や大人たちを増やしていくことができるかという取り組みを、どのようにしていけば良いのかということを検討しようということだったか。

(事務局)

今日お配りしている不登校支援の資料は前回と同じもの。委員の皆様も会議のテーマがずっとブロック研修会にいていたと思われるので、また改めてこちらを提示させていただいた。

(倉持議長)

不登校の支援や不登校の子供の居場所支援のような色々な組織や場所、団体の中で、どう広げて支援し、充実させることができるのか、ということに対しての提案や社会教育委員として何ができるのかを投げかけられている。

関係団体が集まる会議やイベントのようなことをやったらどうかという意見が出て、これから参加する人ということを考えたら、何か報告会や講演会のようなものがあつた方がよいのではないかというような意見を挙げていたかと思う。不登校支援のネットワークづくりということに関連するご意見等はあるか。

（齊藤副議長）

確か清瀬市では、別室指導支援員という制度が去年ぐらいから取り組みが始まっているかと思うが、こちらの資料に中学校は載っているが、小学校でもそのような支援員が活動しているかと思う。また、各校に巡回をする方が今年から配置されたというのは聞いているが、そのあたりをもう少し詳しく知りたい。その巡回をしている方がどのような感想を持たれていて、どのような課題があるのかなど。清瀬市内の小中学校での別室指導の制度というものを、もう少し詳しく知りたいと思う。

（倉持議長）

今話を聞きながら思い出したが、そのような関係者の方の話を聞こうというようなことも確かアイデアとしてあつた。まずそこから始めようというようなことも話していた。

（永嶋委員）

不登校を支援する施設がたくさんあるが、不登校の子供たちが増えている。不登校が最近当たり前になっている。不登校が良いとか悪いとかというのは何とも言えないが、支援の団体というのは所謂対処療法のようなもの。不登校の子供たちが増えてきているから、それにどう対応するかというところ。

けれども、なぜ増えてきているのかや、増えてくる原因になっているところのアプローチというのはあまりない。その根本とアプローチをするところが本来は必要なのではないかと思った。

このような専門機関がたくさんあり、それに対処している職員がたくさんいる。そのような人たちは、不登校が増えてきているというところを認識していて、それを変えていくためには不登校児に対してどう対応していくかというのはもちろんあるが、不登校という状況無くすかどうかはどちらが良いか分からないが、不登校を課題として考えているのであれば、その不登校にならないようなシステムや、不登校になっている原因にどのようにアプローチするのかというところを話していかないと、これからどんどん不登校児が増えていき、それに対してのみ考えていくのは、あまり生産的な活動ではないと思う。

（倉持議長）

結局、若者支援や子供たちの不登校を予防するという考え。その子供たちが伸び伸びと生活できるような環境づくりといった話を、不登校という問題から考えるといった話かと思う。

(永嶋委員)

ただ、その子供が不登校になる原因というのがどこかにあり、そこを変えていかないと不登校というものは無くならない。基になっているものにどうやってアプローチしていくのかというところが、大切なのだと思っている。その基になっているものが何なのかというのは、実際に子供に関わっている人たちがどう感じているのかというところがとても重要だと思う。それは親なのか学校なのか、それとも社会の風潮なのかなど、色々あると思うが。

(倉持議長)

先程の別室指導員の方や支援団体、不登校支援をなさっている方たちに、その実態と子供たちの様子や活動、そのような支援活動をされていて、不登校が増えてきていると思う要因や背景について話を伺って、社会教育からできるアプローチをする。支援の層を広げ、子供の居場所を作る。または色々な交流を生み出すなど、そのようなところだったら社会教育だと思う。子供の保護者層の家庭教育の支援という形の社会教育。その親たちが安心して、育ちについて悩みを相談でき、親たちの学びの場を作る。

(永嶋委員)

自分は高齢者の専門。高齢者の介護もそうだが、要介護の人が増えてきている。この要介護の人たちを介護する人を増やさなければいけない状況となっているが、そもそも要介護にならないようにするということを考えないと、要介護の人がどんどん増えていく。だから人数が足りないということになってくるわけなのだが。

里孫交流と言い、血の繋がっていない高齢者と子供が、あたかも祖父母のような関係にして個別に関わって世代間交流をするという活動がある。その活動をしている九州の保育園の園長先生に話を伺ったら、そういうふうにして子供が高齢者に関わるようにしているのだけれども、保護者が子供に、汚いから触ったら駄目よというようなことを言っていると。それはもう子供の問題ではなく、保護者のそこをどうにかしていかないと、最終的には根本的な解決にならない。だから、そこにも何とかアプローチをしていけるようにできないか。社会教育というのはむしろ、そこなのではないかと思っている。

(玉置委員)

清瀬市は中学校が5校あり、中学校にも支援施設があるが、この中で横の繋がりや意見交換などはしているのか。また、学校の地域性によって、〇〇中学校の子供の不登校がとても多いなど、エリアのデータも原因や要因が分かるのではないか。もしくは、どこの中学校でも同じような傾向の子供がいるのかということについて、横の繋がりや皆さん情報共有しているのかどうか。そしてゴールは、学校に行かせるのがゴールなのか。不登校を認めながら次のステップの高校、通信制などがあるが、そのようなところに進み、まずは社会に出ようという取り組みはしているのかどうか、そのようなところを具体的に知りたい。清瀬市はどのような取り組みをしているのか。そ

のようなデータはあるか。

（事務局）

その件に関しては我々所管課ではないので分かりかねる。また、内容もどこまで出しているのかということや、差別に繋がるということもある。

（倉持議長）

地域性のことは別だが、実態として、中学校の学校内に支援施設が置かれているので、この資料を更新していただきたい。横との繋がりとして、連絡会や研修会といったような交流があるのかどうかは確認ができると思うので、それを書き足していただく。不登校支援に対する方針、何をゴールにしているのかということは、教育委員会の他の部署できっと何かお持ちだと思うので、そこを共有できると良いと思う。

（永嶋委員）

不登校については全国的な課題だと思っている。不登校がとても増えていて、うちの大学に来る学生も高校で不登校だったという人もいる。今は通信制の高校も随分増えていて、教育システム自体が従来と変わってきているというか、見直さないといけないと思う。

中学校同士の横の連携はとても重要だと思った。私は色々な保育園に関わっているが、各保育園の先生や園長と話をする、今4歳児に、人との関係性が図れない子供が非常に多いと聞く。それはコロナの頃に保育士がマスクをしていたときに、本当に小さかった子供。園長同士で話をする、1つの保育園ではなく、あらゆる保育園で4歳児の問題が共通しているようだ。コロナは全国的でしたから、おそらく清瀬だけではなく、近隣や全国的にそうなのかも知れないが。そういうところでお互いに情報共有をして、横の繋がりがないと自分のところだけ増えているのかと思ったりする。だからその話を伺って、共有という意味はとても重要だと思った。

（倉持議長）

不登校を考えるときに自由な選択としての、言い方が少し不適切かも知れないが、自分の学びのスタイルや個性が分かった上での家族の理解が増えるという子と、本当に心身追い込まれた、命に係わる、社会に関われない、行き場所が無いという不登校。色々なパターンの子。ここだけではなく、地域に色々な場所を作るとか社会参加をする窓を作る、支援をする方が親を育てる、というところだったら社会教育の範疇だと思うので、学校教育とかみ合う形で支援を考えていけたら良いと思う。

そのネットワークづくりに向けて、社会教育委員として何か提言のように出しても良いし、学習会として、私たちが学習するところに他の人も参加しても良いというような形でやるということもできると思う。何かそういう少し目に見える形でやれたら良いと思うので、先程の中学校の横の繋がりが今は無いのだとしたら、各中学校でどんな取り組みをしているのかを私たちが伺うとか、その場に皆さんに来ていただいて、お互いに知ってもらうような形の場が作れるかも知れない。支援されている側の

方たちの話を聞くというのも、社会教育委員の会議のところに市民が参加できる場を作るということもできると思う。そういう場に、保護者の方にアプローチするように案内をし、5年生や中学生の親御さんが来やすいように、こういうことをやりますと設定をするということもできると思う。

提言を出すにはまだまだ私たちも少し知識と情報が足りないので、そういった話を伺うことを積み重ねてやれると思うことと、それを社会教育委員の会議の中で投じるだけではなく、一緒に聞いてもらおうとした方が、広がりを持てる。しかしそれを今年度中にやろうと思うと場所や時間やお金が関係してくるので、それをどうするかを次回ぐらいには固めていかないといけない。社会教育委員の会議について、12月以降は何月にあるか。

(事務局)

2月17日を今年度の最後の会議として予定している。

(倉持議長)

次年度に向け、今年度に企画をし、次年度に何かをやる。こういう考え方もできる。そうすると時間的には少し余裕があって良い。先程言ったように、社会教育委員の研修会に一般市民も参加するというようにする場合は、会場や謝金を払うとなるといった場合、謝金が出るのか。会場は取らせてもらえるのかということについてはどうか。次年度なら間に合うのか。

(事務局)

今ちょうど予算要求をしているところだ。場所については公用という形で押さえることができると思うので、そこは日程を詰めていけば可能かと思う。謝礼については、社会教育委員の中では無いが、他の青少協といったところの中では、同じような形で、委員と保護者が聞けるような研修会をやり、謝礼を支払っているということを聞いたことがある。

(倉持議長)

例えば青少協や先生方と一緒になど、色々な企画があるかと思う。もし社会教育委員の会議として研修費をつけてもらえるのであれば、私たちの研修だが企画のような形にし、市民にも還元するというような形でやりやすいかと思う。

(事務局)

講師を頼んでということなのか。

(倉持議長)

市の職員や支援員などには謝金はいらないと思うが、例えば中学校などで活動されているボランティアの方だとしたら、多少お礼を出せたらありがたい。少しでもつければ、そういった方々に来ていただけるかと思う。

(事務局)

これについては当課の課長とも相談させていただき、できそうであれば予算要求に計上したいと考える。大体どのくらいの規模でお考えか。

(倉持議長)

今年はブロック研修会の企画を頑張ったので、このノウハウを生かして、次年度の不登校支援のネットワークづくりの計画を立てようということになれば、アミューホールを使ってみたい。

(事務局)

やるのは夏か秋か。我々も予算取りをするのにもう少し具体的に伺いたい。大体で構わないが、例えばいつ頃に、アミューホールで保護者や一般市民も聞ける催し物をしたいかなど。

(倉持議長)

ホールでやるという想定で、社会教育委員や社会教育関係の委員、不登校支援関係の方にも声掛けをするけれど、一般の市民も参加できるような無料の講座で、規模としては登壇者が3人いて、例えば助言者のような方がいるような形。謝金が2、3人ぐらい出る想定で申請をしていただきたい。2時間ぐらいの交流会のようなもの。大枠そのようなイメージだがどうか。

(事務局)

やるのは秋ぐらいか。ブロック研修会もそうだったが、準備があるので大体秋ぐらいだったと思う。

(倉持議長)

夏から秋は行事が多いと思われるので、皆さん参加できるかどうかという話はあるかも知れないが、スケジュールとしては秋ぐらいで企画書を作っていただけるか。

私たちがいきなりネットワークを作ってくださいと言うわけにはいけないので、ネットワークに繋がるような、そういうことを考えるような機会を作るという方向で検討してみたいと思う。

世代交流ということも今回のブロック研修テーマだが、不登校支援に関しても大きな目線、長い目線で見られるのも、学校教育でやるのとは少し違う観点でできる。色々な人に参加を呼びかけるのも良いと思う。

今日色々な観点やアイデアを出していただいたので、また次回の継続検討とする。今日はアイデアベースで色々とお金の話もしたが、それを次回、もう少し具体案を話し合い、できれば教育委員と意見交換をする際に、今このようなことを考えて、来年度こういうふうにやりたいと思っているということで、教育委員からも意見をいただいて、練り直して次年度に向けて動くというスケジュールで進める。

それでは、他に報告等、委員から何かある方はいらっしゃるか。なければ本日の会議は以上とし、令和6年度第3回社会教育委員の会議を閉会する。